基礎情報				
事業名	慢性疾病を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援 および交流を支援する場「ポケットスペース」		事業総額	1,700,000 円
実施団体名	特定非営利活動法人　ポケットサポート		補助総額	1,360,000 円
協働担当課名	健康づくり課			
連携団体名				

事業評価			
事業の目標 （提案書より抜粋）	慢性疾病を抱える子どもが将来への希望を持って生活できるようになる。 またそのための地域・社会づくりを目指す。		
取り組み	現在（平成 28 年 9 月末）の状況	自己評価	課題がある場合、その対策
①　長期入院にともなう学習の遅れなどについての学習・復学支援「ポケットスペース」	慢性疾病を抱える外来通院をしている子どもに対し学習及び交流活動を行い、復学に向けての支援を行っている。医療機関から活動の場（「ポケットスペース」と名称）の提供があり、感染予防、守秘義務など留意し運営している。 子どもは勉強道具を持参し、ポケットサポートのスタッフや大学生ボランティア（以下、大学生）から学習の支援を受けている。 利用者数 129 人（9 月末現在）。 ポケットサポートのスタッフは、大学生に「慢性疾病を抱える子どもへの関わり方」、「感染予防」、「体調や気持ちの変化に合わせた関	「ポケットスペース」は、慢性疾病を抱える子ども同士が交流できる場のため、子どもは時に悩みを表出しつつ、楽しく学習ができ、結果、療養意欲へ繋がる場ともなっている。 ポケットサポートは、医療従事者から、環境づくり、感染予防対策、精神的支援について、助言を得ることにより、利用者の特性に合った運営ができている。 「ポケットスペース」は、医療・福祉・教育学部の大学生にとって、慢性疾病を抱える子どもへの理解の場にもなっている。 運営にあたり、活動協力や寄付の依頼、民間の助成金の活用など、活動の幅を広げてい	通院中の子どもの場合、外来受診の妨げにならないよう、医療機関との連携連絡も密に行うことを心がけている。 大学生は、慢性疾病を抱える子どもと触れ合うことが少ないため、支援の意欲はあっても戸惑いが大きい。このため、事例検討会やロールプレイによる勉強会を開催することにより、大学生の支援のレベルアップやサポート体制を図っている。 学習環境調査や、関係機関からの聞き取りにより、学習・復学支援の場としての「ポケットスペース」の活動のあり方を引き続き検討していく。

	わり方」などについて指導している。	るところである。	
② 院内学級を有しない岡山市内の総合病院に入院中の子どもの学習環境調査	6 月、院内学級を有しない A 総合病院に入院中の子どもの学習環境について聞き取りを行った。結果、調査期間中において、長期入院の子どもは幼児期が多く、学童期思春期の子どもが少ないことが分かった。7 月、院内学級を有しない B 総合病院へ聞き取り調査を行ったところ、医療従事者から、アンケート調査の協力を得ることができた。調査にあたり、入院中の子どもが置かれている状況や、子どもや保護者の声を聴くことができたため、関連文献を検索し、調査項目を検討している。	院内学級を有しない総合病院に、学習環境の実態の把握及び調査協力依頼を行った結果、学習環境調査の協力を得ることができた。 調査を行うにあたり、小児科医や看護師、教員経験者のアドバイスを得て、院内学級を有しない長期入院中のこどもの学習環境の状況、困りごとや希望している支援について、現状をつかみながら、調査項目を検討することができている。	主治医との連携を図り、調査を行う。 調査をもとに、長期入院中の子どものニーズを分析し、具体的な復学・学習支援環境を提言できるよう進めていく。
③ 病気の子どもたちの環境理解のための講習会や講演会	7 月 10 日（日）、病気の子どもの学習支援について第一人者である昭和大学の副島賢和先生を迎え、公開講座を企画した。教育・医療・行政関係機関等へ周知し、120 名の参加があった。アンケートの結果では、とても良かったとの回答率は95%であった。また、ポケットサポートの活動に協力をしたいとの回答は82%と高評価であった。 9 月には、活動に協力をしたい方や大学生に対し、フォローアップとして、ポケットサポートスタッフ、小児科医、院内学級教員経験者ら講師による講習会を実施した。	行政と協働したことで、医療関係や教育関係など多方面に講演会の周知を図ることができた。 参加者の満足度は高く、病気の子どもが置かれている現状やひとり一人できる支援があることを周知する良い機会となった。 講演会参加者等に対して、さらなる理解を深め、支援者を増やす目的で、7 月の講演会の後に、フォローアップの場として、講習会を計画的に実施することができた。	講演会参加者からは、継続した講演会の企画の要望があり、引き続き講演会を含めた啓発活動の企画立案を行う。 長期療養中の子どもの理解や関わり方等内容を盛り込んだ講習会の充実を図り、長期療養中の子どもに関わりのある関係機関（教育現場等）へと連携について検討する。

協働評価

項目	自己評価	課題がある場合、その対策
連絡・調整について それぞれが積極的に情報を 公開・共有していますか？	電話やメールでの連絡と会議において、連絡調整を行っており、情報の共有はできている。	
協働効果について それぞれが役割を果たし、 相乗効果が生まれていますか？	会議などで共有したことは各内部での検討にも反映させており、それぞれの役割に従って、活動を円滑に行うことができている。	
関係性について それぞれが対等な関係のもとで 事業が進められていますか？	命令されたり圧迫感を受けたりするようなことはなく、子どもへの支援活動をスムーズに遂行できている。	
目的共有について 次年度以降の事業展開について 協議・共有されていますか？	会議にて話し合いを行い、今年度だけでなく次年度以降の事業展開について協議・共有できている。	

実務評価

項目	自己評価		「していない」場合、その対策
収入・支出に計画からの大きな 変更は発生していませんか？	☐している	☑していない	
収入・支出を記録するとともに 証明書類を保管していますか？	☑している	☐していない	
事業の成果が記録・整理され、 成果物が保管されていますか？	☑している	☐していない	

その他

ESD・市民協働推進センターへの要望や 特記事項があればご記入ください。	特にありません。

中間評価は以上になります。ご協力ありがとうございました。